

地域と大学が連携した地域づくり～香川大学学生 ESD プロジェクト SteeeP を事例として～

古川 尚幸 (香川大学)

Keyword : 地域づくり、大学生、学生主体、SDGs、ESD、食品ロス

【問題・目的・背景】

私たちは大量の商品やサービスを購入し、それらを消費することで、便利で快適な暮らしを営んでおり、その暮らしは、大量生産・大量消費・大量廃棄の経済社会システムの上で成り立っている。しかし、これからもこのシステムを続けていくと、いずれどこかで破綻してしまうことは明らかであり、これからの社会では、持続可能な社会にシフトすることが強く求められている。このことは、SDGs (持続可能な開発目標) や ESD (持続可能な開発のための教育) の急速な拡がりを見ると明らかである。この持続可能な社会へのシフトに向けて、国際的に、また全国的に様々な取り組みが行われているが、私たちの暮らしの場である地域においても、環境問題への取り組みは重要な課題である。

これまでに当研究室では、「研究」ならびに「教育」、「地域貢献」の側面から、地域と連携した地域づくりに取り組んできた。その成果として、香川大学経済学部が展開する地域と大学が連携した地域づくりの草分け的な学生プロジェクトである香川大学直島地域活性化プロジェクト (以下、直島プロジェクトと略する) や、香川大学 Bonsai☆Girls Project (以下、BGP と略する)、香川大学小豆島 SAKATE プロジェクト (以下、坂手プロジェクトと略する)、KAGAWA Maker (以下、KM と略する) の活動をすでに報告してきたところである。

本報告では、これまでの学生プロジェクトにおいて得た知見やノウハウをもとに、新たな題材として環境問題を取り上げ、大学の取り組みとして、環境問題をテーマとした地域づくりの可能性を示すために、学生が主体となった環境プロジェクトである、香川大学学生 ESD プロジェクト SteeeP (以下、Steeep と略) を事例に、その現状と課題について述べる。

【研究方法・研究内容】

地域における環境問題への取り組みについては、新聞等のメディアで目にする機会が多いが、大学生が主体となった環境プロジェクトに関する研究報告はいまのところ数少ない。具体的には、村山 (2015) の麻布大学における事例や、岡山 (2017) による全国の大学における学生参加の EMS (環境マネジメントシステム) の先進事例に関する報告を

あげることができる。

したがって、本報告が、これからの学生による環境プロジェクトの一助となることを期待しつつ進めたい。

1 香川大学学生 ESD プロジェクト SteeeP について

本報告の対象となる SteeeP は、2017 年 4 月に設立した学生が主体となったプロジェクトであり、香川大学では初めてとなる環境問題をテーマとした学生プロジェクトである。その設立にあたっては、香川県や高松市などの地方自治体、香川県地球温暖化防止活動推進センターなどから協力を得ながら、地域から環境意識を醸成することを目的として様々な活動を展開している。

2 プロジェクト設立のキッカケ

香川大学古川研究室では、当時所属していた 4 年生の卒業論文のテーマとして、食品ロス問題に取り組んでいた。この食品ロス問題について地域で考える機会を創出するために、食品ロス削減イベント「ともにキッチン」を企画・運営し、その可能性について検討していた。他方、古川研究室では、香川県環境森林部環境政策課ならびに香川県地球温暖化防止活動推進センターとともに、学生が環境問題に取り組むための新たなスキームについて検討していた。

これらふたつの流れのなかで、地球温暖化防止や食品ロス問題に取り組む学生プロジェクトを、2017 年 4 月に設立するに至った。

3 プロジェクトの目的

これまでに報告した直島プロジェクトや BGP、坂手プロジェクト、KM と同様に、この SteeeP においても、プロジェクトの目的として、以下の 3 点を達成するために活動をすすめてきた。

(1) 実践的な経営体験

プロジェクト運営を通じて、座学では得ることのできない実学を身につける

(2) 社会人基礎力の向上

プロジェクト運営や地域活動を通じて社会人基礎力を身につける

(3) 地域活性化への貢献

事業者・自治体と協力し、地域産業活性化や地域活性化に貢献する

Steeep のテーマは環境問題であるため、プロジェクトとし

て収益をあげることが難しい分野ではあるが、これまで報告したプロジェクトと同様に、自らの活動を通じて得られた資金をもとに、自らのプロジェクトを運営するという基本的な方針を変更することなく活動を展開してきた。

4 プロジェクトの概要

現在、SteeP に所属する学生は、男子学生6名、女子学生15名の計21名である（2020年8月1日現在）。これまで報告してきた学生プロジェクトと同様に、女子学生の割合が高い傾向がみられる。学年別にみると、1年生8名、2年生2名、3年生7名、4年生4名である。また学部別では、経済学部3名、法学部10名、教育学部1名、創造工学部7名が在籍している。これら21名の学生たちが、リーダー1名、副リーダー3名のもと活動している。

SteeP も、これまでの報告した学生プロジェクトと同様に、各学部では正課活動として位置付けられておらず、正課外活動として位置付けられているため、参加する学生が活動を通じて単位を得ることはない。また、プロジェクト活動を通じて得た収入はすべて活動費に充当され、参加する学生の個々の収入になるわけではない。環境プロジェクトや学生プロジェクトはボランティア活動として捉えられることが多いが、SteeP は単なるボランティア活動ではなく、プロジェクトの運営を学生自ら行うことで、学生たちの自己研鑽の場となっている。

5 プロジェクトの活動

SteeP の活動を大きく分けると、以下の5点を中心に組み組んでいる。

- (1) 香川県学生地球温暖化防止活動推進員
- (2) エコツアーの企画・運営
- (3) 環境イベントや出前授業
- (4) 香川大学環境報告書の作成
- (5) 食品ロス削減イベントの企画・運営

それぞれの活動項目について、以下で詳細に述べてみたい。

(1) 香川県学生地球温暖化防止活動推進員

プロジェクト設立のキッカケでも述べたように、香川大学古川研究室では、香川県環境森林部環境政策課ならびに香川県地球温暖化防止活動推進センターと協力して、2017年に香川県学生地球温暖化防止活動推進員制度を制定した。この制度は、都道府県ごとに設置されている地球温暖化防止活動推進センターのなかで、すでに制度化されている地球温暖化防止活動推進員の学生版である。四国では、2015年に徳島県地球温暖化防止活動推進センターが制度化しており、2020年には愛媛県地球温暖化防止活動推進センターにおいても制度がスタートした。

この制度のなかで、SteeP に所属する学生は、香川県地球温暖化防止活動推進センターが開催する一定の研修期間を経ることで、香川県地球温暖化防止活動推進センターより香川県学生地球温暖化防止活動推進員として任命される（写真1）。



写真1 香川県学生地球温暖化防止活動推進員に任命

任命された学生は、香川県学生地球温暖化防止活動推進員として1年間の活動を経て、その活動が充分と認められる場合、香川県知事から香川県地球温暖化防止活動推進員として委嘱を受け、さらに地球温暖化防止に向けた様々な啓発活動を展開することになる。

(2) エコツアーの企画・運営

SteeP では、これまでに香川県内の一般産業機械メーカーや温泉施設の協力のもと、小学生とその保護者を対象としたエコツアーを企画・運営してきた。

一般産業機械メーカーでは、食品残渣からバイオガスやアルコールを生成するプラントの受注製造を行っているため、食品廃棄物からメタンガスをとり出して燃焼させる実験や、実証プラントの見学などを行った（写真2）。



写真2 食品残渣からメタンガス発生実験

また温泉施設では、温泉を沸かす際に、近隣の森林から排出された間伐材を燃料としている。この森林での間伐作業や間伐した樹木を薪にする体験などを行った（写真3）。



写真3 間伐材から薪割り体験

このエコツアーでは、学生はツアーの企画や実施に向けた打ち合わせ、見学や体験の際の子ども向けの説明や資料の作成などを担当し、食品リサイクルやバイオマスエネルギー、森林での間伐の必要性について学習する機会を提供した。

（3）環境イベントや出前授業

これまでに Steep では、香川県や高松市と連携して、様々な環境イベントなどで活動してきた。具体的には、香川県や高松市がそれぞれ主催する環境イベントにおいて、子ども向けエコ工作教室を実施してきた。エコ工作教室の実施にあたっては、インターネットを用いて調べたエコ工作について、事前に難易度などを確認したうえで、教え方など練習を積み、実施してきた。実施したエコ工作教室は、毎回、子どもたちから好評を得ている（写真4）。



写真4 エコ工作教室

また、高松市からは、たかまつ COOL CHOICE キャンペーンの一環として、子どもたちが地球温暖化について学習するときの啓発リーフレットの制作を受託した。このリーフレットの制作にあたっては、そのコンセプトやデザインを学生が担当し、地球温暖化防止に繋がる「賢い選択」を促す国民運動である「COOL CHOICE」を子どもたちが理解しやすいように、学習ノート型リーフレット「くーるちょいすノート」を制作した（写真5）。また、この「くーるちょいすノート」を用いた出前授業も行った。



写真5 くーるちょいすノート

（4）香川大学環境報告書の作成

香川大学では、これまで施設環境部施設企画グループが中心となり、事務組織の立場から香川大学環境報告書を制作してきたが、三重大学環境 ISO 学生委員会など、先進的な活動を展開している他大学に倣い、Steep が設立したことをキッカケに、Steep も環境報告書の制作に参画することとなった。その手始めとして、現在、環境報告書の表紙や学内に掲示するポスターなどのデザイン、簡単な記事の執筆を担当している（写真6）。



写真6 香川大学環境報告書ポスター

(5) 食品ロス削減イベントの企画・運営

Steeep を設立するキッカケのひとつとなったものが、この食品ロス削減イベント「ともにキッチン」である。そのコンセプトは、廃棄される食材にあって、まだ食べられる食材を、学生メンバーのコーディネートのもと、参加者のコミュニケーションを通じて、ともに決め、ともに調理し、ともに食べることである。

初期のともにキッチンでは、高松市内の商業施設のワークショップスペースを会場に、商業施設地下にあった食品スーパーマーケット（現在は閉店）から、イベント当日の朝に排出される廃棄食材を無償で提供していただき、その食材をイベントで使用するというものであった（写真7）。



写真7 提供された廃棄食材

現在のともにキッチンでは、会場を高松市内の複数のコミュニティーセンターの調理室に移し、コミュニティーセンターの近隣にある食品スーパーマーケットなどから廃棄食材を無償で提供していただき開催している（写真8）。



写真8 ともにキッチン

【研究・調査・分析結果】

すでに直島プロジェクトや BGP、坂手プロジェクト、KM の活動を通じて得られた知見を報告しているが、Steeep の活動を通じて同様の知見を得ることができた。学生プロ

ジェクトの成功に向けたポイントについて、以下の3点をあげることができる。

- (1) 学生主体の取り組みであること
- (2) 自主財源を生み出すシステムをもつこと
- (3) 得られた知識を伝承するシステムをもつこと

【考察・今後の展開】

Steeep では、環境プロジェクトであるがために、特に上前述の3つのポイントになかでも、②自ら財源を稼げるプロジェクトであること、を意識して活動を行っている。

この点については、筆者がすでに報告している直島プロジェクトや BGP、坂手プロジェクト、KM など、様々な学生プロジェクトにおいて重要なポイントであり、まだ達成できているとは言い難いが、Steeep の環境活動においても、プロジェクトの継続性を保つために重要なポイントであると言える。

また、これまでも述べてきたように、各地で取り組まれている地域づくりにおいても成功のカギを握る重要なポイントである。

【引用・参考文献】

- 岡山咲子 (2017) 「学生参加の環境マネジメントシステムにおける人材育成効果と課題」『環境教育』27 巻 3 号, 35-39 頁
- 古川尚幸 (2018) 「地域と大学が連携した地域づくり～香川大学 Bonsai☆Girls Project を事例として～」『地域活性学会第 10 回研究大会論文集』146-149 頁
- 古川尚幸 (2019) 「地域と大学が連携した地域づくり～香川大学小豆島 SAKATE プロジェクトを事例として～」『瀬戸内海』77 号, 55-57 頁
- 古川尚幸 (2019) 「地域と大学が連携した地域づくり～香川大学直島地域活性化プロジェクトを事例として～」『地域活性研究』10 巻, 127-134 頁
- 古川尚幸 (2019) 「地域と大学が連携した地域づくり～KAGAWA Maker を事例として～」『地域活性学会第 11 回研究大会論文集』103-106 頁
- 古川尚幸 (2019) 「地域と大学が連携した地域づくり～香川大学経済学部取り組み～」『調査研究情報誌 ECPR』43 巻 1 号, 45-51 頁
- 村山史世 (2012) 「大学の地域共創と活動の評価 ―学生環境まちづくりを中心に」『共生科学』3 巻 3 号, 93 - 103 頁